

鳥城会報



成功裏に新趣向の総会

担当幹事団の努力力 みんしと社和衷夫

平成8年度の鳥城会総会は昨年11月17日正午から帝国ホテルに会員のほか翠紅会（鳥取高女同窓会）代表も含め93人を集めて開かれた。「日曜日の昼間」「帝国ホテルで」という新しい試みが好評だった。

定刻に始まった総会では、議事の進行を早めるため、渡辺誠毅会長、山田董西高校長の挨拶や議案・報告に関連した資料を「鳥城会報・特別版」として配り、時間の短縮を図った。

このあと懇親会は立食で行われたが、各所にテーブルと椅子も用意された。各テーブルでは、一流シェフの料理に舌鼓を打ちながらの歓談が続き、楽しい時間を過ごした。

なお、今年度の総会担当幹事は西高12回となる。

担当幹事から
「ご協力に感謝を！」

従来とは趣向を変えて、「昼間」「帝国ホテル」で開かせていただきました。夜では何かと都合がつき

にくい人もあること、場所的にも落ち着いた所であれば、皆様に喜んでいただけたいと趣旨を電話で伝え、幹事同を得られました。当日、会でもこの新しい試みを検討していただいた結果、賛

「まあ一度 出てみなんせエ」

鳥城会の 特に西高卒の皆さん、ご友人に会われたらタイトルの一言をいつてみて下さい。



古ーい先輩
「あー、あー、あー」
「懐かしい顔に会えーだけエ 一緒に鳥城会に行かないや」と付け加えて言う事も忘れずに！
あのお堀の側の学舎という、連続とした歴史を共有する事で、強く繋がっている鳥城会の、これから先の隆盛を考えると、会員の増強を図る事は、大きな課題と言わねばなりません。おっと、少々物言いが硬すぎたかな。
何はともあれ、皆で気軽に集まって、楽しい、嬉しい鳥取弁を心ゆくまで「しゃべらーで！」
(絵・文とも 児童漫画家 篠田 英男・西高9回)

思いの外、出席が多かった。その沿革をたどれば、昭和49年（一九七四年）、旧鳥取一中関東同窓会として発足。同58年（一九八三年）には、懸案の鳥取西高卒業生の参加が実現し、伝統の継承と会の若返りが約束され、今日にいたっています。
この間、先輩、同僚、後輩には、鳥取を代表する幾多の人々を輩出しています。まさに「済々多士を出しつ、連綿ここに百余年」（旧鳥取一中校歌より）というべきでしょう。過去の会員名簿等を参照しながら、鳥城会を彩る人々を駆け足で紹介することにしました。
(文中の期はすべて一中)

哀悼の意とともに、まず物故者についてふれますと、沢田三兄弟の一人として知られる沢田節蔵氏（14期・元ブラジル大使）があげられます。兄の退蔵氏（日伯中央協合理事）、廉三氏（元外務次官、初代国連大使）も一中のご出身だったと思います。日中国交回復に大活躍された古井喜美氏（32期・元衆院議員、法相）も忘れることができません。政官界では、元参院議員の木島虎蔵氏（31期・元日本通運会長）、県知事、参院議員、自治相を務めた石破二期氏（38期・元建設次官）がおられました。
実業界に目を転ずると、大先輩で、いずれも県人会会長・県政顧問も務められた田子富彦氏（15期・元神戸製鋼所副社長）、太田武雄氏（26期・元日本バルブ工業社長）がおられます。さらに谷口義夫氏（31期・元住友化学常務、東邦化学工業社長）、栗村龍家氏（34期・元三井アルミ工業社長）、山本勉氏（39期・元古河電池社長）、藤谷良吉氏（45期・住友不動産取締役）と多岐です。なかでも栗村氏は鳥城会初代会長として発会の労をとられ、谷口氏が二代目、山本氏が三代目として、それぞれご苦労されたことに感謝申し上げたい。
その他では、農業界に長く君臨された三橋誠氏（36期・元全購連、全農会長）、硬派の文芸評論家の荒正人氏（43期）らが知られています。
紙幅の関係で、この辺でいったん筆を置かざるを得ませんが、ご紹介した物故者はどなたも惜しみ余りある方々です。改めて合掌いたします。

鳥城会紳士録

西高5回 林田 達郎 記

さて、現在の鳥城会に戻ることにした。顧問の三熊文雄氏（37期・元新日本電気相談役）、佐々木定道氏（41期・元日産自動車副社長、富士重工社長）は元鳥城会副会長。佐々木氏は県人会会長も務めたことがある。同じく顧問の河原卯太郎氏（42期・元農林省局長、糖価安定事業団理事）は長らく四代目会長を務められた。前副会長の山下武氏（45期・元建設省局長、住宅金融公庫理事）は経理担当として鳥城会の財政安定に尽くされた。
現会長（五代目）の渡辺誠毅氏（44期・元朝日新聞社長、前横綱審議委員会委員長）は高校野球や大相撲のテレビなどにも登場されており、名実ともに「鳥城会の顔」といえる。
副会長・レクリエーション担当の杉村公美氏（50期・東商ビル診療所長）は舞台役者に知人が多く、親類二代にわたる水谷八重子の主治医になっている。同じく副会長・企画担当の山根眞樹生氏（54期・元新日鉄副社長、九州石油社長）は西高の後輩にまで幅広く面倒見がいい。鳥城会の役職には就いていないが、話題性という点では、さきごろ高速道路に固定資産税をかけると頑張った前日野市長の森田喜美男氏（41期）や第二国立劇場運営財団理事長の木田宏氏（51期・元文部省学術国際局長）もおられる。
次回から一中55期以降を順次紹介します。

その後、帝国ホテルを利用 厚く御礼申し上げます。
（総会担当幹事 寺谷 敏克・西高11回）

二十人参加で 春の囲碁大会

（レクリエーション活動報告）

優勝は鳥城会のレクリエーション活動の中で大きな役割を果たしており、同好者の登録者は60余人（平成9年2月現在）を数えています。

今年度は2月9日（日）日本棋院で20人が参加して「平成9年春季囲碁大会」が開かれました。ちなみに前回は平成8年5月に開催されているが、最近、県人会主催の囲碁大会も開かれるようになり、鳥城会メンバーも多数参加していることなどから、鳥城会の大会は、これと重複しないように間を置くことにしたものです。

当日は3段以上のA組10人と2段以下のB組にも

「苗字のみか」と博博」に「どろろ」ぞ
—— お問い合わせは東京事務所へ ——

いよいよ「山陰・夢みなと博覧会」が7月12日から鳥取・境港市竹内工業団地で開幕します。

「廻り、交流新時代」をテーマに環日本海の国々も参加するこの博覧会は、中国・四国地方で初めてのジャパンエキスポです。環日本海時代の新たな夢とロマンスあふれる交流拠点づくり

「中国返還」までカウントダウンの状態にある、この香港でも何人かの鳥城会員が働いている。その一人として、歴史的な大イベントを前にした香港事情を簡単に報告する。

中国返還、までカウントダウンの状態にある、この香港でも何人かの鳥城会員が働いている。その一人として、歴史的な大イベントを前にした香港事情を簡単に報告する。

中国返還、までカウントダウンの状態にある、この香港でも何人かの鳥城会員が働いている。その一人として、歴史的な大イベントを前にした香港事情を簡単に報告する。

中国返還、までカウントダウンの状態にある、この香港でも何人かの鳥城会員が働いている。その一人として、歴史的な大イベントを前にした香港事情を簡単に報告する。

自主的活動も盛んに



たほか、全員に参加賞が決定されました。大会は夕刻に

無事終了しましたが、参加者一同、囲碁の楽しみとともに会員相互の交流に喜びを感じた次第でした。

の皆様の積極的な参加をお願いいたします。次回幹事にはA組優勝の西田さんが当たられますので、ご承知おきください。

相の田沢智治氏や岡本範道・鳥取県商工労働部長らも参加し、総勢30人にもなりました。

たが、この準備のため、頻りに会合を重ねるうちに、同窓生としての親密さがより深くなった。このコミュニケーションの輪を今後も継続するため、2月から定期懇談会「二木会」（にもくかい）を発足させた。

元鳥城会員で鳥取に帰って岩美町長を務める吉田達男君（前参院議員・西高5回）が、このほど「ふるさとに立つ」と題する本を出し、故郷に寄せる明日への思いや今日を生きる情熱を吐露している。

二十人が一喜一憂？

肌寒さがなお残る4月19日（土）、快晴の府中・東京競馬場で鳥城会有志による、中央競馬を楽しむ会が開かれた。

出版元は実兄の牧野和春君（中64回・西高3回）が経営する牧野出版（03・3261・0768）で定価1千500円。

これは鳥城会の公式催事ではないものの、林田達郎君（西高5回）が中心となり、同じ西高出身（6回）で中央競馬会（JARR）理事・統括官を務める寛邦男君の配慮によって企画されたもので、今年で2回目。

新設なメインスタンド。中61期は毎年、開催地を鳥取、近畿、関東の三会場を持ち回りで全国同窓会

ご要望に添えて、年2回の発行に踏み切りました▼もともと素材不足により、連載「期別の活動を拝見」は休載。代わりに、新連載「鳥城会紳士録」を企画しました▼どんな記事、どんな情報でも結構です。事務局宛にご投函下さい。

第二木曜に「二木会」

同窓懇談会「二木会」を定例化する。

高くなった。一年以上も前からメディアに関して規制がひかれており、目に見えない所で何か起こっているのがあるが、一般市民には見えない、聞こえないの二重苦なのである。

発行所 鳥城会事務局 03・3564・0171

編集委員 川口 義男（中58回） 横山 豊（中61回） 林田 達郎（西高5回） 三浦 三郎（前事務局局長） 清水 紀代志（事務局局長） 三角 幸子（西高15回）